

2020年2月8日

2020年度 名古屋栄養専門学校学校関係者評価報告書

名古屋栄養専門学校
学校関係者評価委員会

2020年度名古屋栄養専門学校学校関係者評価について、以下の通り報告します。

記

- 1 学校関係者評価委員
 - (1) 上原正子氏 愛知県栄養士会副会長（委員長）
 - (2) 外山友之氏 メーカー株式会社人事部部長
 - (3) 柴田充代氏 ヤトウ病院管理栄養士（卒業生）

- 2 評価委員会開催日等
2021年1月30日（土）
14：00～15：30
名古屋栄養専門学校第一講義室

- 3 学校関係者評価
別紙の通り

別紙

基準項目ごとの学校関係者評価

1 教育理念・目標	
現状と課題等	<p>従来から、調理力、献立作成能力などいわゆる現場力のある栄養士を養成するのが教育理念である。現場で体を動かすことをいとわない栄養士を育てたい。本年度のような新型コロナウイルス感染拡大時には、さらに適切な行動をとることができる人材の養成も望まれる。</p>
学校関係者評価委員会 評価、意見、提案など	<p>企業の採用試験では、災害時といっても特別なことはないが、個人が事故に会わないような行動がとれる人材が必要である。ルールを守って感染しないような行動がとれることが必要である。</p> <p>災害時の対応について、市町村栄養士と会議する機会があり、そのなかで、避難所での栄養摂取の課題、問題点を一般の人にもわかりやすく提示できる栄養士が必要と思われた。伝える人がどのような人なのかを把握して、柔軟に対応できる人材を養成する必要がある。</p> <p>社会の中で栄養士がどのような役割を果たすべきか、を教育理念の中に入れて欲しい。そのことによって、どうして働くのか、なんのために働くのが学生にもわかってくると思われる。</p> <p>後輩が職場に入ってきて、真面目だが規則通りにしか行動できない人よりも、コミュニケーションがうまくとれる人が望まれる。特にコロナの様な時には自己管理ができる人が安心である。</p>
学校側 改善案、回答など	<p>本年度のように新型コロナウイルス感染症拡大が起こった場合のみでなく、いわゆる災害時にも現場で力を発揮できる栄養士の養成にも力を注がなければならない。感染症を含む災害時には、自分を守り、社会の中でどのような行動をとったらよいかについて、考えることができる人材を養成したい。そのために、災害、感染症等について、授業の中で機会を捉え、適切な行動についての科学的意味を理解し、身につける時間を設け、非常事態の経験をした意義を有効に活用したい。</p>

2 学校運営	
現状と課題等	<p>本年度は、新型コロナウイルス感染者を出さないように、カリキュラムをこなす運営をしてきた。</p> <p>時間差通学、ドアノブ等の消毒、密集を避けたクラス編成などの対応をする一方、課外活動はほぼ中止し、1, 2年の交流もはかれないまま1年が過ぎようとしている。</p>
学校関係者評価委員会 評価、意見、提案など	<p>会社の方でも、感染者が出たときに本部機能が落ちないように、リモートワークが行われている。採用時の面接でも、最終面接を除いて、リモートワークで行った。</p>
学校側 改善案、回答など	<p>できる限り自宅で授業が視聴できるオンライン授業を取り入れていくが、実験、実習は対面でやらざるを得ず、より一層の感染防止対策をとりながら実施していく。学校の場合特定多数の集団であるので、可能な限り簡易検査を導入し、実施していきたい。</p>

3 教育活動	
現状と課題等	<p>本年度は新学期からオンライン授業を開始した。その結果、一部対面授業が開始された時点で、一日中実験、実習が続く事態となった。このような状況となり、学生の疲労感について実態調査を行ったところ、特に多くの学生が強い疲労感を訴えることはなく、ほぼ平均値を中心に正規分布していることが確認された。</p>
学校関係者評価委員会 評価、意見、提案など	<p>この調査は10月に調査したこともあり、学生が栄養の勉強をしようという意志が固まったため、このような強い疲労感を訴えることのない結果になったのではないかと思われる。感染者が出ていないのも、学校の方針が学生に理解されているのが原因ではないか。</p> <p>調査の時期とは関係なく、入学した学生の質からこの結果に結び付いたのかもしれない。疲労感と食生活習慣が結び付いているのは、興味深いデータである。おそらく栄養士になろうという学生が集まっていることもあり、感染対策も理解できているという結果が現れたのではないか。他校との比較も面白いかもしれない。</p>
学校側 改善案、回答など	<p>もともと栄養士志望者は、衛生概念が比較的身についていると思われる。</p> <p>疲労感と食生活習慣のデータについては、各学生に還元しているので、自分自身の食生活習慣の振り返りのきっかけとして活用していきたい。</p>

4 学修成果	
現状と課題等	就職については毎年内定率はほぼ 100%の結果となっている。本年はコロナの影響で企業懇談会も中止し、学生の出足が少し遅れた感があったが、現在のところ、順調に内定をもらっている。今後は定着してくれるかどうかの問題となる。
学校関係者評価委員会 評価、意見、提案など	確かに定着率が悪い傾向がある。会社としては拒まず採用しようとしている。 職場でもコミュニケーションがとれる人が長く勤めることによって、信頼関係が生まれるということがある。
学校側 改善案、回答など	コロナの副産物として zoom の意外な効果がわかった。学校に登校できない学生にとっては有効なツールとなる。管理栄養士国家試験の対策にも活用していきたい。 定着率の向上については、常に社会の中での置かれた立場、就職できることのありがたについて、学生には理解できるよう工夫していきたい。

5 学生支援	
現状と課題等	中西学園として一律 10 万円の支給、授業料 1/2 の減免、学納金の延納、夏休みの補講、卒業後の補講などを提示してきた。 一人暮らしの学生にとっては厳しい 1 年なったと思われる。 学生の健康状態の把握の一環として、自覚疲労状況のアンケート調査を実施した。
学校関係者評価委員会 評価、意見、提案など	関連の施設で、医療従事者としての国からの援助がある。アルバイトをしていた人が就職してから、援助を受けたという例がある。
学校側 改善案、回答など	国や関連先の援助の機会を最大限利用し、学生の支援としたい。

6 教育環境	
現状と課題等	本年度の教育環境はオンラインを導入するなどイレギュラーなものになった。現時点では校外実習が課題である。
学校関係者評価委員会 評価、意見、提案など	<p>オンラインになってから、学生が勉強する時間が増えたという話がある。オンラインの調理実習の例としては、最初に実例を見せて、後は学生が自分で家で実習を行い、それをチェックするという授業を行ったところ、意外に学生は学習できることに気づいた。オンラインになったからこそしっかりやるという一面も確かにある。</p> <p>校外実習については、コロナウイルス感染拡大状況の中で、受け入れが難しい面が確かにあるが、なるべく健康管理をしっかり行った上で、実施できる様にしていきたい。その際もお互いの信頼関係が大切である。</p>
学校側 改善案、回答など	<p>校内における実験、実習については、現在のクラスをさらに半分に分けて、実験、実習するグループと演習を行うグループに分けて実施する方法を検討したい。</p> <p>また校外実習については、学生の健康管理を厳格にし、受け入れ先との信頼関係を築きながら、実習の機会を活かしていきたい。</p>

7 学生の受入れ募集	
現状と課題等	本年度は定員を少しオーバーした。分析はなかなか難しいが、コロナの影響で不景気となり、ライセンスをとりたいという応募が増えたことが考えられる。
学校関係者評価委員会 評価、意見、提案など	適切と思われる。
学校側 改善案、回答など	来年度はどうなるかわからないが、募集対策はこのまま続けていきたい。

8 財務	
現状と課題等	中西学園として適切に運営されている。
学校関係者評価委員会 評価、意見、提案など	概ね適切と思われる。
学校側 改善案、回答など	特になし。

9 法令等の遵守	
現状と課題等	各種法令、基準に則って運営している。
学校関係者評価委員会 評価、意見、提案など	適切と思われる。
学校側 改善案、回答など	特になし。

10 国際交流	
現状と課題等	留学生については、毎年中国、台湾などの国から1～2名入学者がある。今年初めてベトナムの留学生が入学した。漢字を使わない国からの留学生は初めてのケースであったが、日本語を理解することが難しく休学となった。
学校関係者評価委員会 評価、意見、提案など	会社でも技能実習生として留学生をとっている。今年はベトナム人を採用して指導している。実習生については現場で調理を行っている。他の部署からも希望があり、今後の人手不足を見越して採用していきたい。
学校側 改善案、回答など	日本語の問題もあるが、学びたいという意欲のある留学生には、できるだけ対応したいと考えている。

その他総括	
現状と課題等	最近学生にメンタル的に弱い者が増えてきた。その場合は個別に対応せざるを得ず、時間をとられるケースが多くなってきた。 栄養士に必要な技術の習得以外に、コミュニケーションがとれるスキルを身につけていく必要があると思われるが、学校としても限界がある。今年の場合コロナの影響がどのように出るか、評価が問われる。
学校関係者評価委員会 評価、意見、提案など	コロナになったからこそ、メンタルが弱い学生が勉強できるという面もある。学生も多様化してきた個人対応は難しいとされてきたが、それをやらざるを得なくなってきていることも事実である。今後の学校は学生の多様化に対応できなければならないと思われる。
学校側 改善案、回答など	学生はますます多様化してくる傾向にある。すべての面に対応することはなかなか難しいが、専門学校の役割を考えながら職員が協力して運営していく体制を整備したい。